



「ぴーぶる」第3回に登場
理工学術院教授
かさほら ひろのり
笠原 博徳

**30年以上続くワクワク感
目指していることは変わらない**

「ぴーぶる」掲載が始まった1987年の第3回に登場した笠原教授。記事では人間型ロボットアームの動きを複数のコンピューターに割り振って高速に行う研究が、世界最大級の国際会議で第1回若手著者賞を受賞したことが紹介された。あれから30年近くたった今も、「目指している“世界最速”は何も変わっていない。立ちほだかる壁を乗り越え、そのワクワク感を感じながら、ずっと並列処理の研究を行ってきた」と語る。

その努力は、マルチコアによる最新の処理装置でソフトウェアを自動的に高速化すると同時に省電力化する技術「マルチコアプロセッサ及び並列化コンパイラ」として実を結んだ。世界最大手の半導体メーカーも達成できない世界唯一の技術を誇る、発熱によるプロセッサ高速化の限界やソフト開発費などの問題を解決する革新的技術だ。

笠原教授は自動車エンジン制御の並列化にも世界で初めて成功。医療・携帯・IoTにも使えるこの技術は、今年中にも製品化される。「産学連携は極めて困難なことだが、この技術が実社会で生かされるよう成功させたい。この壁を今、乗り越えようとしている」と、笠原教授は30年以上続くワクワク感に、学生と共に胸を躍らせている。

※「ぴーぶる」は開始当初、教員も紹介するコーナーでした。

参考：早稲田大学プレスリリース「自動車・携帯電話・がん治療まで応用可能なマルチコアプロセッサ及び並列化コンパイラ、社会実装へ」<https://www.waseda.jp/top/news/34523>



講師時代の笠原教授

早稲田大学高等学院出身。1980年早稲田大学理工学部卒、1985年同大学院博士課程修了(工学博士)。1986年に同理工学部講師となり、1997年に教授。2009年世界計算機学会理事。2014年文部科学大臣表彰科学技術賞受賞。笠原教授の「マルチコアプロセッサ及び並列化コンパイラ商用版」は、白井克彦前早稲田大学総長らによって設立された大学発のベンチャー企業「オスカー・テクノロジー(株)」から製品化され、実社会で利用される。

えび茶ゾーン

教授陣によるリレーコラム 第961回

皆さんが文書を作成するときにそうであるように、パソコンのキーボードを打ってこの原稿を書いている▼私が初めてPCを購入したのは1988年、ちょうど大学の助手をしていたころで、研究室の名簿を入力するのが最初の練習だった。PCを使い始めるまでは当たり前だった「ペンで書くこと」が、この日を境

に古めかしく面倒くさいことになった▼皆さんがそうであるかどうかは分からないが、私は昔から図書館や書店で興味のある本を立ち読みしていると急に便意を催す。そのため、初めて入る書店や図書館では真っ先にトイレの場所を確認する▼この症状が悪化したのは1983年から2年間、中国に留学したときのことだ。中国の古い小説や戯曲が研究対象だった私にとって、劇場で古典劇を見ることが図書館で古い書物を見るのが主な活動だった。芝居を観るときは問題ないのに、図書館で埃にまみれた古い小説や戯曲のテキストを見ていると、ほぼ間違いなくトイレに

行きたくなる▼世の中には私と同じような症状を持つ人が少なからずおり、「青木まりこ現象」と呼ばれていると知ったのは、留学を終えて帰国した直後だった。印刷の匂いが原因であるとか、興味のある本を見ているときのワクワク感が原因であるとか、さまざまな解説がなされていた▼これまで数多くの学生諸君に「青木まりこ現象」をもたらしてきた本誌も、印刷物として発行されるのは本号が最後。4月からはWebマガジンとして発行される。新たなメディアに身を包んだウィークリーは今まで以上に私たちをワクワクさせてくれるものとなるか。乞うご期待。(M)

お知らせ

2015年度授業期間中の発行はこれが最終号となります。1年間のご愛読ありがとうございました。3月25日に卒業記念号、4月1日に入学記念特別版を発信します。『早稲田ウィークリー』Webサイトに注目!